

名誉司令官オリエンテーション開催



HONORARY COMMANDER PROGRAM

第18航空団広報局

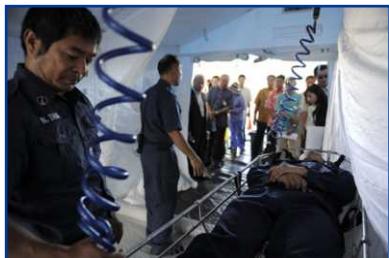
9月7日（金）、嘉手納基地で2001年より実施している「名誉司令官プログラム（旧コーコマンダープログラム）」という交流プログラムのオリエンテーションが開催されました。



このプログラムでは、嘉手納基地幹部（群、中隊、準構成部隊、航空団幕僚）と地元地域において指導的立場にある方々を「名誉司令官（アナラリー・コマンダー）」としてパートナーを組み、航空団の様々な行事や個人的なイベントを通じて親密な交流と同基地の役割や任務を地元に広く周知、地域の文化についての理解を深めることを目的としています。



この日は、50名以上の地元の名誉司令官、そして第18航空団司令官マット・モロイ准将をはじめとする嘉手納基地の幹部が多く参加、交流を深めました。将校クラブで行われた冒頭の挨拶で、モロイ准将は「名誉司令官プログラムは私たちの友情と『トモダチ』の絆を深めるための大切なプログラムだと考えてあります」と述べ、多くの名誉司令官の参加を歓迎しました。



モロイ准将より概況説明を受けた後、参加者は第18憲兵中隊のK-9と呼ばれる軍用犬の部隊で基礎指示のデモンストレーションを見学。観衆はよく訓練された軍用犬とハンドラーと呼ばれる係員の息のあったチームプレイに感心している様子でした。その後、嘉手納基地の消防本部で、ハズマット(Hazmat)と呼ばれる化学汚染時の隊員の除染工程や爆弾物処理小隊による爆弾処理用のロボットの遠隔操作、航空機火災用の消防車両の放水の様子を見学しました。



憲兵隊員であり消防隊員であり、同等の訓練を受けた日米両国の隊員らが肩を並べて共に任務にあたっている様子が印象的だという感想が参加者から聞かれました。



ツアーフの終盤、嘉手納基地の主力戦闘機であるF-15機と米空軍の最新鋭戦闘機であるF-22機を見学、実際に戦闘機を操縦しているパイロットから説明を受けました。普段、間近で見ることができない戦闘機を目の当たりにし、熱心に質問する見学者もいました。航空機見学の後は将校クラブにもどり、軽食を交えながらパートナー司令官同士の懇談を楽しんでいました。





現役高校生、デリースが教えてくれる 嘉手納基地内学校情報あれこれ

PART 4

嘉手納基地広報局インターン生
嘉手納ハイスクール3年 デリース・ダニエルズ著・編集

ハーラー様お久しぶりです。6月16日から8月29日まで夏休みだったので記事を書くことを少しあ休みさせていただきました。さて、カデナハイスクールや米国の高校では、日本の高校とは違う夏休みの期間中、宿題が全くありません。私の周りにいるカデナハイスクールの友人らはそれぞれ違った夏休みを過ごしたようです。ある生徒はアメリカへ里帰りしたり、またある生徒は沖縄で過ごしたりと、それぞれの夏休みを楽しんだようです。そこで、私も含めて4人のカデナハイスクールの生徒が過ごした夏休みを覗いてみました。さあ、どれが私でしょう？

夏休みの過ごし方

Aさんの場合：6月19日から7月10日まで アメリカのバージニア州に友達に会いに行きました。また、アメリカの首都のワシントンD.C.にも行って旅行を楽しんだとのことです。



(チャルシー・ジョーンズ撮影)

Bさんの場合：夏休みはほぼ毎日アルバイトをして過ごしたそうです。アルバイト期間中の休みは週にたた一回。その貴重な休日は、お友達と一緒にビーチに行ったり、お買い物に行ったりして楽しんだそうです。



(たくやさん撮影)

Cさんの場合：夏休みにカンボジアの孤児院でボランティアをして過ごしたそうです。そこでは本を読んであげたり、勉強をしたりしたそうです。Cさんはこの経験を生かして将来はカンボジアで英語を教えたいとのことです。



NATSUYASUMI!

(ピクトリア・ガットフレイ撮影)

Dさんの場合：今年の夏休みは、アメリカのテキサス州にお父さんの転勤のため一家そろって引っ越しなければなりませんでした。お父さんは7月に一人ハワイへ出張へ行き、8月にテキサスで家族と合流しました。そこで、引越しの作業は残った家族（Dさん、Dさんのお母さんと弟3人）で準備をしなければなりませんでした。Dさんのお父さんは軍人の為、約3年に一回は転勤のため引越しがあります。

さて私は…答えはBです！

国防省立教育機関学校への登録システム

在沖縄国防省立教育事務所

米軍基地内にある国防省立教育機関の学校では、6月中旬から8月後半までの夏休み終わると、新学期が始まります。夏休みは、米軍関係者が転勤する時期もあり、新学期に合わせて沖縄に移ってきた米軍関係者の子供達も、新しい環境で学校生活をスタートさせることとなります。両親にとっても、子供達がスムーズに新しい学校に転入することは、とても大切なことです。国防省立学校では、早めに子供達を学校に登録することで、事前に生徒のニーズを把握、適切に教職員を配置し受け入れ態勢を整えることができます。特に、米国本土を離れた海外基地という環境では、十分に資格のある教員と専門の支援職員を採用することは、長い時間を要します。そのため、国防省立教育機関学校では、新しい学校に移動する際、「事前登録(pre-registration)」、「登録(registration)」、「再登録(re-registration)」、「転校・退学(withdrawal)」という転入・転出の手続きがあります。このような制度を理解することで、より円滑に新しい環境での学校生活を始めることができます。手続きは、両親を含むスポンサーと呼ばれる生徒を引き受ける保証人によって行われます。以下、各手続きの内容を紹介します。

事前登録(pre-registration)：オンラインで事前登録することにより、家族が学校に来る時間を省くことができます。または、オンラインで入学登録用紙入手し、基本情報を記入、到着時に学校へ提出することもできます。オンラインで事前登録した場合も、手続きを完了するには、スポンサーは直接学校に来る必要があります。

登録(registration)：学校の授業に出席する前に、登録が必要とされます。必要な書類を、登録する学校に提出。通常の学校期間中、この登録はいつでも行うことができます。必要書類は、学校で直接受け取るか、オンラインで入手することができます。学校は提出された書類を受領後、入学資格を確認、登録システムに生徒を編入した後、授業に出席できる開始日を連絡します。

再登録(re-registration)：国防省立学校にすでに在籍している生徒で、次年度も継続して通学希望の生徒は、再登録が必要となります。同じ学校に継続して通学するか、または進級で学校を変更する場合、学校年度が終了する前に、生徒の在籍している学校で登録を更新しなければなりません。転校を希望する場合は、転校願を在籍している学校へ提出。その転校願を検討後、学校側は許可 不許可の連絡を行います。再登録をスムーズにするためにも、毎年4月にある春の登録期間など、できるだけ早めに再登録を済ませるよう勧めています。

転校・退学(withdrawal)：学校から児童を除籍するため手続きで、ほとんどの場合が、スポンサーの勤務地の変更に伴うものです。スポンサーは、署名された勤務地移動命令書の写しを学校に提出し、離任する前に退学申請を行わなければなりません。同手続きは、正式な命令書を受け取った後、出来るだけ速やかに、各児童と各学校に対して完了する必要があります。そのほか、何らかの理由により子供を除籍したい場合も、通学中の学校に出向き、退学申請をおこないます。退学申請の書類には、退学の理由を記入する必要があります。

教科書は学校から無料で貸し出され、学校期間終了後は学校に返却しなければなりません。次に使う生徒もいますので、教科書に文字を書き込んだりハイライトペンで印を付けることも禁じられています。米国籍を持つ軍人と軍属の子弟は、授業料が免除されています。米国籍を持たない日本人や一般外国人の子弟は、学校側に受け入れる余裕があれば、基本的に入校することも可能ですが、授業料を納めなければなりません。

嘉手納基地内には、小学校4校、中学校2校、高校1校が所在し、2012年9月現在で4509人の生徒が在校中です。2012年度の学校期間は、2012年8月27日から2013年6月13日となっています。感謝祭の休日が、11月22日～23日、冬休みが12月24日～1月4日、春休みが4月8日～12日、夏休みが6月14日～8月後半となっています。学校期間の終了後に夏休みがありますので、夏季講習を受講しない限り、日本の学校のように夏休み期間中に宿題が出ることはありません。



(米空軍：ジャスティン・ヴィゼイ上等兵撮影)

嘉手納外語塾生、英語で嘉手納町の街中を紹介 Clean-up Exchange!

第18航空団広報局

「This is the Immigration Office.. Here is Okinawan Soba shop. Have you tried Okinawa soba?」

暑い日差しの中、嘉手納町の街中で嘉手納外語塾生が米国人ボランティアに説明する声が響きました。



(写真全て、米空軍：マリア・ジエンキンス上等兵撮影)

2012年9月6日、嘉手納外語塾に通う1年生13名は、嘉手納基地から参加した米国人ボランティア約10名と嘉手納ロータリー周辺を歩き英語で案内しながら、一緒に清掃活動を行いました。米国人と英会話を通して交流を図りながら、街を綺麗にするという企画が設けられました。

2名1組（外語塾生1名に米国人1名）のペア、または3名1組のグループをつくり、ロータリープラザを出発し、隣接する沖縄防衛局、嘉手納町役場の説明をし、町内を歩きながら18か所の店舗、飲食店、その他公共施設等を紹介しました。

米国人ボランティアは、初めて見る畳店を珍しそうに眺めながら説明を聞いたり、居酒屋ではどんな食べ物があるのかなどボランティアから質問された塾生たちは、英単語を選びながら説明に励んでいました。

参加したボランティアのマリア・ジエンキンス上等兵は、「塾生の英会話に協力することができます、嬉しく思いました。日本の文化に触れることもでき、さらにどのお店でどんな食べ物を食べることができるのかも教えてもらいました。とても実りのある経験で、またこのような機会があれば参加したいです」と感想を述べました。



KADENA AB VOLUNTEER TEAM



CHEESE!



KADENA LANGUAGE INSTITUTE 'S STUDENTS

Clean-up Exchange!

地元小学生、野国総官墓碑を見学

第18航空団広報局



9月7日、嘉手納町立屋良小学校3学年の教員と生徒およそ50名が、嘉手納マリーナにある野国総官の墓碑を見学しました。

この見学は、嘉手納町が推進している総合学習の取り組み

として、嘉手納町の偉人について学ぶ目的で行われました。野国総官の墓の前に建立された碑文を生徒が熱心にメモを取っていました。野国総官は400年以上も前に、中国から沖縄へサツマイモを持ち帰り、当時の沖縄の食料不足を救った歴史的な偉人として知られています。

外務省沖縄事務所主催による「沖縄理解増進セミナー」

第18航空団広報局

外務省沖縄事務所の主催による「沖縄理解増進セミナー」が、9月21日に嘉手納基地内で開かれました。

嘉手納基地に所属するおよそ85名の軍人・軍属が参加し、沖縄の歴史・文化の説明を受け、古武道の演武を学びました。冒頭のあいさつで、同事務所の竹内春久大使と第18任務支援群司令官ジェフリー・オルマン大佐は、同セミナーの意義を説明しました。また第18航空団司令官マシュー・モロイ准将も同席し、セミナーを見学しました。

第1部では歴史専門家の仲本和彦氏が、文化を理解するには先ず歴史を学習する重要性を説き、沖縄の戦前・戦後の歴史の流れや米軍基地と住民との関わり合いなどを、沖縄戦の動画を交えながら説明しました。

第2部では、沖縄伝統古武道保存会総本部（文武館）の仲本政博会長が、同会からの2人の弟子と共に、武術用の武器を使いながら古武道を実演しました。その後、見学者達も参加し護身術の方法を学びました。嘉手納基地における外務省沖縄事務所主催の同セミナーは、今回で4回目の研修会となりました。



(記事の写真全て、米空軍：テラ・ウィリアムソン上等兵撮影)

Skoshi Kadena, published by 18th Wing Public Affairs, Kadena Air Base Kadena Web Site: <http://www.kadena.af.mil> E-mail: 18wg.pa@kadena.af.mil



Chief, 18th Wing Public Affairs Office: Major Christopher Anderson

Editors: Ms. Takako Fukuwara, Mr. Hideaki Sakihama, Ms. Keiko Toma, Ms. Sayaka Kawatake, Ms. Makiko Miyara and Ms. Derrice Daniels
Graphic Designer: Ms. Naoko Shimoji

The *Skoshi Kadena* is published monthly and is an authorized publication by 18th Wing Public Affairs in Kadena Air Base. Contents of the *Skoshi Kadena* are not necessarily the official views of or endorsed by the U.S. Government, the Department of Defense, or the Department of the Air Force. The editorial content is edited, prepared, and provided by the 18th Wing Public Affairs Office. All photographs are Air Force photographs unless otherwise indicated. Contents may not be reproduced, distributed, or translated without the prior written permission from the 18th Wing Public Affairs Office.

『スコシカデナ』は、嘉手納基地第18航空団広報局より毎月発行されている出版物です。編集内容は、第18航空団広報局により編集、準備、提供されています。掲載される内容は、米国政府、米国防省または米空軍の見解・承認を必ずしも反映するものではありません。第18航空団広報局の書面による事前許可なしに、掲載写真や記事の無断転載を禁止します。